山本小学校だより

令和５年１月１３日
No.１３
文責　藤髙　ちよ

あけましておめでとうございます！

新しい年、令和５年（２０２３年）がスタートしました。保護者の皆様、地域の皆様、今年もどうぞよろしくお願いします。

新しい年に子供たちはどんな目標を立てたでしょうか？

新しい年を迎えた３学期は、学年のまとめの時であるとともに、新しい学年に向けての準備の時でもあります。自分自身の目標をしっかりと立て、一人一人が輝く３学期にしてほしいと思っています。

１月１０日(火)の始業式では次のような話をしました。

サッカーワールドカップで活躍した日本代表チームのことについて触れました。ベスト８をかけた試合で惜しくも敗れてはしまいましたが、選手一人一人の活躍、互いに思い、支え合い、前に向かって進んでいこうとする力がたくさんの感動を与えてくれました。特に、相手チームが先に点数を取っていても、決してあきらめず、チーム全員でボールをつなぎながらゴールに向かって突破しようとする姿に、感動した人も多くいたのではないでしょうか。そんな日本代表チームも敗れ、ベスト８には進むことができませんでした。試合はここで終わりましたが、試合後の日本代表チームの行動に世界が称賛しました。

一つは代表チームを率いた森保監督の姿です。試合後、客席に向かって深々とお辞儀をする姿がありました。日本から駆け付け、応援してくれたサポーターも、ともに闘うチームの一員であったのだろうと思います。サポーターの応援も力にして、ここまで闘うことができたことに感謝した一礼であったと思います。

また、代表スタッフも、試合後にロッカーを清掃しました。清掃が終わったロッカールームには折り鶴が飾ってあり、上を向く鶴が今日からまた強く頑張っていこうとする日本代表チームの姿と重なりました。

さらに、日本代表チームとともに闘ったサポーターが、客席のゴミ拾いしたという報道もありました。

このような姿を通して、次のようなことを考えました。

- ○　（行動するためには）気づくことが大切である。
- ○　（気づいたことから）自分にできることを考え、行動にうつす。

森保監督はサポーターの存在の大きさに気づき、代表スタッフは、安心してプレーできる環境があったからだと気づいていたと思います。その上で自分にたちにできること、感謝の気持ちを伝えるための行動をとっていました。日本チームの行動から山本小の３学期の目標は、

まだコロナも落ち着かないので、健康づくりに取り組みながら、自分ができることを一つずつ増やしていくために、

「まわりの様子を見て、自分に何ができるか、どのようにすればできるかを考え、行動にうつすこと」

に取り組んでほしいと思います。

学校生活を送る中では良いことばかりではないと思います。
どんな時も、よりよくするために考え行動にうつしてほしい
と思います。そして３学期が終わるときに、
「自信をもってできるようになったことがたくさんあった」
「できなかったことが少しずつできるようになった」
「まだ難しいこともあるけど続けて頑張っていきたい」
と思うことができるようになってほしいと思います。

３がっきにみんなでがんばりたいこと

けんこうづくりに取り組みながら、できることを一つずつふやすために、

まわりのようすを見て、じぶんに何ができるか、どのようにすればできるか考え、行動にうつす！

一人一人が、「まわりの様子を見て、自分に何ができるか、どのようにすればできるかを考え、行動にうつすこと」で、学校全体が、「あかるく・たのしく・元気な学校」になるように頑張ってほしいと思います。